編集後記

最近授業で狂言について知っていることを尋ねると、来夏の東京オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式の演出の総合統括に、狂言師の野村萬斎氏が就任した話題を挙げる学生が複数いた。この話題と共に、狂言の知名度が上がっているように感じられる。その萬斎氏は、かねてから日本のアイデンティティーを「すだれ文化」だと語っている。日本では、舞楽や雅楽をはじめ、能狂言や歌舞伎、近代以降は新劇、宝塚など、多様な舞台芸術が時代を経て残っていく。「前の文化を否定せず、すべて捨てずに次の時代へ引き継ぐ性質」がすだれに例えられており、伝統芸能に軸足を置きながら、現代的な取り組みを積極的に行っている萬斎氏らしいことばである。

海外の人から日本に多くの関心が寄せられるオリンピック・パラリンピックは、日本のアイデンティティーや日本文化の魅力とは何かを改めて考えさせられる機会にもなるだろう。本学も今年の秋には、移転してくるテンプル大学ジャパンの学生たちと、キャンパスを共にすることになる。その中で、正に日本のアイデンティティーを研究している学科として、どのような新しい視点の学びを行うのか、学生とも議論しながら考えていきたい。

この『日本文学紀要』には、日本語学一編、古典文学四編、近代文学一編、中国文学一編の計七編の研究論文を収めることができた。最終的にはほぼ例年通りの論文数となったが、担当からの再三の呼び掛けで、形が調ったというのが実情である。ご寄稿くださった先生方に改めて謝意を表したい。最後に、いつものことながら、この一冊にまとめ上げるためにご尽力いただいた編集室の方々に厚く御礼申し上げる。（A・Y）

編集委員　山本　晶子
　　市川　清史

学苑　九百三十九号
定価　八六四円（本体八〇〇円）
購読料　一ヵ年分　一〇三六八円
（本体　九六〇〇円）
平成三十年十二月二十日　印刷
平成三十一年一月一日　発行
編集発行人　常喜　豊
印刷所　三秀舎
発行所　昭和女子大学
近代文化研究所
〒154-8533　東京都世田谷区太子堂
一ノ七ノ五七
電話　03（三四一一）五三〇〇

☆掲載論文の無断転載を禁じます。